



【NINAGAWA 千の目】

(財)埼玉県芸術文化振興財団 芸術監督・演出家

寺島しのぶ×蜷川幸雄

さいたまゴールド・シアター

特集 『船上のピクニック』

一年後のいま、いよいよ『舞台』に乗り込む



Rehearsal report

文=木俣 翁(フリーライター)

本公演の本格的な稽古がはじまった日、制作の元に団員がつめかけていた。チケットが発売後即完売状態で、関係者分も手に入りにくくなっていたのだ。

「蜷川幸雄演出 岩松了作の芝居と言ったら人気公演。普通なら9000円くらいするチケットなのに、俳優が新人の私たちだから3000円。これは貴重ですよね」ととある団員は笑った。

舞台は豪華客船のデッキ。再就職先に向かう希望の船旅のはずが、難民を乗せたことで不穏な変化が。お互いが言葉に出さない謎めいた部分から、小さなつむじ風のようにいろいろな感情が沸いてくる。岩松書き下ろしの戯曲を蜷川演出で…2回の中間公演を含む1年間の研鑽を経たゴールド・シアター本公演には、この上もなく本格的な舞台が用意されていた。逆に言えばハードルは高い。

岩松 了の台本との格闘

岩松戯曲は演劇界でも高度な戯曲とされている。書かれた台詞とは異なる心

理が隠されていて、俳優は書かれていない部分を探り、演技でそこはかとなく感じさせなくてはいけない。

冒頭からその最たるもの。「私は避けられてると思ったの」と突然言い出す女性は、干しぶどうを頬張りながら「お友達」と呼ぶ相手に自分のことを語り続ける。なぜ彼女は延々自分のことを語るのか？ 「インテリ女性が周囲に相手にされない理由を他人のせいに転嫁し、自己防衛している」と蜷川は分析。ぶど

うを食べるタイミングを意識的にしたり、髪の毛をかきあげる仕草を採り入れたり、人物像が次第に立体化していく。いきなりしゃべり出すその前から会話が続いているリアリティーにも気をつかう。このシーンは何度も何度も繰り返された。日々続く特訓(?)にグッタリする団員に蜷川は「ある日突然できるようになるよ。でも苦労しないとそういう日は訪れないんだ」と励ました。

三方向舞台で成果を發揮する

戯曲も難しいが、船上が舞台で三方向に客席があるという状態での立ち方、動き方も難しい。一定の方にばかり向いていると逆側には常に背を向けていることになるので、意識的に各方向に顔を向けるように気を使わなくてはならない。蜷川は、俳優たちの動きを細かくつけるため、共に船のセットの上に乗りクルクルと動き回っていた。まるで乗組員のひとりのようだ。

「三方向に開いた舞台は難しいが、個性的なみなさんの姿を見せるにはこのほ

うが効果的」という蜷川の言葉は団員の志氣を高めた。

ダンスシーンもある。1年間ダンスレッスンも行ってきた団員だから、華麗なダンスを披露できるはずだが、これまた道のりは果てしない。「ラテンナンバーなんだからもっと陽気に！」と振付家・広崎うらんがハッパをかけた。

やらなくてはいけないことが盛りだくさん。でもコレを乗り越えることで一年間の取り組みの意義を立証できるのだ。



6.22 Premiere

初日舞台に、踊る



初日、曇の上では夏至だが外では雨がしとしと降る中、客席はピッカリ埋まっていた。蜷川幸雄は「この舞台には正面や横という視点の階級制はない」と言った。船のデッキを模した装置は開かれた空間であり、団員達と高度な芝居に挑む蜷川の宣戦布告の如く堂々と舞台中央に存在していた。観劇に来た俳優・高橋洋は「三方からお客さんに見られ、しかも距離も近い。俳優としては緊張する舞台構造ですね」とつぶやいた。

開演前から俳優が現れプラプラと動く。かすかな波音が聞こえる中、芝居がはじまった。

（私は避けられてると思ったの）

稽古開始から繰り返し稽古が行われた難関だ。この台詞を言う上村正子は日々稽古前にひとりでロビーや外で練習を続け、「ゲネプロ（本番直前の通し稽古）数日前に手応えを得た」そうだ。

語られない言葉が身体から滲み出る

この役は、皆に疎まれている理由に気づかず現実逃避を続ける。この役だけでなく登場人物は皆「自分は何者なのか」「どこに向かおうとしているのか」わからず揺れている。岩松了が台詞の裏に潜ませた想いを蜷川が的確に読み解き丁寧に立体化する。個々の心理状態や互いの距離感が痛いほど伝わってきた。

団員たちも各々役の言動の動機を考えている。劇中、何かとすぐ泣き出す役を演じた大串三和子は「いい年齢してすぐ泣くのはおかしい。でも先行きのことがとっても不安なんと思う。その役が何に反応して感情が高ぶるのか理由を考えています」と描かれていない役の物語を自分の体験などを元に創り出していた。

さいたまゴールド・シアター

蜷川幸雄率いる55歳以上の団員46名による演劇団集団。

募集はこれまでの演劇経験を問わないもので、2週間にわたるオーディションによって選ばれた。2006年4月発足・5月から1年の後の公演をめざしてレッスンを開始。個人史をベースにした身体表現によるこれまでにない演劇を追求し、過去2回中間公演を実施した。

なにしろ蜷川のダメ出しを「戦時中の爆撃に比べたらこわくない」などと言う体験豊富な団員たちだ。彼らの強烈な個性が役に深い陰影をつける。特に外国语を発する難民役は身体表現だけが頼り。「職業的俳優には出せない雰囲気がある」と蜷川。

蜷川は「岩松さんは中間公演での踊りに感動して、この作品にダンスを取り入れたと思う」とダンスシーンにも力を入れた。ドレスアップした団員たちが背筋をのばし顔をあげ『ベサメムーチョ』を歌い踊るシーンではフェリーニの『ボイス・オブ・ムーン』にある「ダンスは刺繡だ。ダンスは人生の讃歌

だ」という台詞を思わせた。クライマックスの白塗りでチュチュの男2人の舞も壮絶。懸命な筋肉の動きが、チエーホフ『三人姉妹』の「生きていきましょう」にも似た想いを語っていた。

44人の“全身言葉”的姿に、観客は共鳴し大きな拍手を送った。蜷川の仕掛けた立体的な空間が、この戯曲は世界の縮図だという理解を大いに助けた。

初日終了後ある団員は「これで満足ではない。まだまだ進化させたい」と言った。(1年を振り返り)「感無量です」みたいな言葉を想像していたのに、なんとも逞しい言葉が清々しかった。



S
A
I
R
E
N
D
I
R
A



運命づけられた人 文=高橋千秋（映画ライター）

あなたには、「会えてよかった」と思える人っていますか？「会わなければよかつた」って思う人は？ けれどまあ、それも運命のひとつ。エレンディラとウリセスの出会いも、たぶん避けようのない運命（の悪戯？）だったかもしれません。エレンディラは言いようのない魅力に満ちた“いたいけな娼婦”。強欲な祖母に命じられて、毎日男たちに体を売っている。かたや、ウリセスは純青な青年。エレンディラが好き、守りたい……澄んだ一途さに憑かれて、ある行動を起こします。彼らの出会いは、幸運それとも悲運？ どちらにしても、もう後戻りはできない。“女の子”エレンディラの謹の奥には、すでに「オンナ」の引力が燃えています。本人も気づいてない、したかさま……。

突飛な情念の世界、けれど蜷川幸雄の演出のもと、美波（エレンディラ）と中川晃教（ウリセス）が演じる、数奇でチクチクした「愛」の形は、もしかしたら「痛かつただけ」のあなたの記憶を、「でもそれも人生、あたしの」に変えるかも。原作者ガルシア・マルケスは、南米生まれのノーベル文学賞作家。「リー・ポッターと炎のゴブレット」の監督マイク・ニーウェルもマルケスの信奉者で、彼の作品「コララの時代の愛」映画化を心底望み続けて、ようやく実現。すでに撮影をスタートさせており、2007年の11月には全米公開となる予定です。

數え切れない「出会い」に戸惑い揺らめくまなざしを、この舞台にひとときゆだねる。それもまた、「新しい出会い」なのかもしれません。

蜷川幸雄の演出とマイケル・ナイマンの音楽で実現する、カリスマ作家ガルシア・マルケスの情景の世界。運命に身を投じる美青年ウリセス役にストレートプレイ初挑戦の中川晃教。あらゆる男が魅了されるエレンディラ役を、映画「さくらん」出演などめざましい活躍をみせる美波が演じる。

エレンディラ erendira

STORY

過失から祖母の家を全焼させてしまった少女エレンディラは、その責任をとるため、祖母により、娼婦として1年に何人の客を取らされている。その美しさから、瞬く間に男達の人気を集め、エレンディラだったが、ある時、彼女は本当の愛を誓う美青年ウリセスと出会う。2人は祖母からの脱出を試みるが、あっさりとつかまってしまう。祖母から逃げるには彼女を殺すしかないと考えた2人は、それを実行しようとするが……。

PLAY

蜷川幸雄演出見世物祝祭劇『エレンディラ』

【日時】8月9日(木)～9月2日(日) 全27公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【原作】ガルシア・マルケス 【脚本】坂手洋二

【演出】蜷川幸雄 【音楽】マイケル・ナイマン

【公演】中川晃教 美波 国村隼 蟹川哲郎ほか

【チケット料金】好評発売中

一般 S席 12,000円 A席 7,000円

メンバーズ S席 10,800円 A席 6,300円

【ハイカスティージ・ツア】8月15日(木) 対象者：チケット購入者・要申込

【talk+talk+talk 第8回】8月16日(木) 出演：中川晃教 美波 ほか

※詳細は財団ホームページ <http://www.saf.or.jp/>





○公開対談シリーズ第8回○
NINAGAWA 千の目
寺島しのぶ × 蜷川幸雄

4月に開催された第8回に登場したのは、
結婚式をごく間近に控えていた時の、女優・寺島しのぶさん。
デビュー時から寺島さんをみつめてきた蜷川幸雄と、
「蜷川さんにダメ出してほしい!」と信頼を寄せる
寺島さんのトークは温かい雰囲気の、しかし演劇人同士の
火花の散る語り合いの場となった。



片手間とか掛け持ちでは手に負えない人です。（蜷川幸雄）

寺島しのぶという女優

寺島（以降N） 寺島さんとは彼女が若い時から仕事をしていましたが、最近は一緒に仕事はしていません。なぜかというと僕に対する態度が悪いんです。（笑）僕は仕事を一緒にしていく、いやな感じを持っていないと思ってるんですが、観に来ないのです。それは、「ふん！」という感じですが、それってどう。

寺島（以降T） いや反発ですよ。私が文学座をやめて初めて呼んでいただいた方が蜷川さんで、その後は蜷川さんにずっと挑戦をしてきたんですが、ある日突然使われなくなって、「じゃ、こっちも観なくていいかなあ」とそんな感じです。

N この態度の悪さと率直さというは、寺島さん固有のものです。もちろん演劇的な教養もあり、お父さんは尾上菊五郎、お母さんは富司純子（すみこ）、弟さんは尾上菊之助君で、演劇的な教養というか血の流れは間違いなくあります。だから、ほっておいても演劇の匂い、映画の匂いに満ちている家庭で演劇的には知らないことはないので、そういう理屈をこねないけれど、しかしだ大事にのんびり奔放に育てられたので、思ったことを何でも口で言ってしまいます。寺島さんは夜でも電話を掛けてきて、「あそここの所が気にくわない」、「〇〇がああ言ったが、あれでいいのだろうか。私はこうしたい」とかでうるさいわけです。その重荷に

耐えかねる日も僕だってあるわけですが、いい女優だということはもちろん分かっています。

T 『血の婚礼』（蜷川幸雄演出・1993年）、以来ですね。私の文学座での卒業公演が清水邦夫さんでした。卒業公演を、たまたま清水さんが観に来てくださった時に、蜷川さんに電話をくださいました。そのタイトルが初めは『ひばり』だったのが『血の婚礼』に変わりました。私が19歳の時です。

N もう少し丁寧に話しますと、僕は、清水邦夫と『ひばり』という芝居をやろうと思ったんです。今年2月に『ひばり』の芝居をやったので、きっと心の底では腹を立てていることでしょう。それで、その『ひばり』ができなくて、『血の婚礼』という芝居をしました。

「寺島しのぶというのがいて、すごくいいんだよ。でも男の子だか、女の子だか分からなんだよ」と紹介され、清水が言うのならいいかなあと思って出でましたが、それはとてもよかったです、それ以来の知り合いです。

その後にも『グリークス』という9時間連続してやるギリシャ悲劇をやりました。そこでは、弟の菊之助君と二人で姉弟の役をやってもらいましたが、これもとても良かったです。その後には『欲望という名の電車』、『テンペスト』、『近松心中物語』もやっていますが、ここ

の所はちょっと仕事がまたま離れたんです。

僕は、売れている時の女優とはつき合わない。売れ

ている時は僕を必要としているんです。

T そんなことはないです。

N 姉弟でやるとものすごくいいです。エレクトラは、オレステスとの姉弟の芝居ですが、二人が本当にものすごくよかったです。

歌舞伎は本当に不思議だと思うのですが、二人がもつれ合うように、近親相姦のように仲のいい姉弟で、仇討ちも一緒にやろうとしている役でした。もつれ合うシーンはあるべットシーンのように二人で演技をやるんです。僕はそっと「ねえ、恥ずかしくないの」と聞いたら、「何で」と二人ともに言われました。菊之助君からは「だって、父ともラブシーンをやりますから」と言われ、「ああ、そうか」と思いました。

T 弟の方がその点は全然慣れていますよ。私は弟よりちょっとドキドキしていました。

N これが不思議で、違う生物を見ているような気がしました。歌舞伎という国があって、そこで生きている人間は、ちょっと違うのかもしれないと思ったんです。それは本当に一回目、二回目の稽古から完璧な仕上がりになるくらい素晴らしいです。

再び二人で何かをやる時が来た

T 私は蜷川さんとは『欲望という名の電車』が最後なんです。その時に蜷川さんに「俺、女優の前で胃薬を飲んだのは久しづりだよ」と言われました。そのぐらい過酷な稽古だったんですよ。本当に理不尽な怒られましたが、初日が開いて「当分、お前とはいなあ」と言われました。

N いい俳優がいい人間であるとは限らないし、いい人間がいい俳優であるとは限らないし、両方悪いのもいます。そういう狭間にいちいちこのうるさい女がつき合はから、ぶれるのです。そうすると「俺の言うことだけ聞いていればいいだろう」と言いたくなるが、しかしそう言ってはいけないタイプなので、「だから、そこはさ……」と僕は我慢しているので胃が痛くなるわけです。自分が悪いんだよ。

T (手を打つ)

N この態度ですよ。（笑）寺島さんとは、いい条件を整えながらもう一度会いたいと実は思っています。ほっておく手はないし、間もなくなると思うし、今は寺島さんは性的奔放というか、表現が性に帰着するような所で生きているではないですか。それを離れなくてはならない時間がなく来るでしょう。

だからその時に、「よし、何にしようかなあ？」と本当に考えているよ。

T 私は『唐版 滝の白糸』とかやりたいですね。私は、母がやっている場合ではないなあと思いました。

N それは、半分正しいよ。

T そっちで蜷川さんとご一緒させていただけるのであれば、そこからまた立ち返りたいという感じがします。『下谷万年町物語』とか。

N これは両方とも唐十郎の作品なんです。『下谷万年町物語』というのは100人近くオカマが出てきて、終戦直後の混乱する日本の中で、オカマの集団や下町の青年たち、松竹歌劇のヒロインたちの女性が出てきます。もう一つの『唐版 滝の白糸』はお母さんである富司純子さんがやりましたが、自分の腕を切り、ホースの代わりに血管とつないで、血の水芸をやるという、激しい女の役をやりたいと言っているんです。この思考で分かるように古典劇や生半可なものより、激しく自分の根柢を振り動かすものを寺島さんはやりたいんだと思うが、それは悪くないなあ。

うるさい関係の幸福

T 今日は蜷川さんは是非に紹介したくて、私の旦那様が来ているんですよ。蜷川さんとやっていた頃の私を知らないから観てほしいんです。彼は演劇なども大好きなので、そういうすごいビジュアルの蜷川さんの劇を観てもらいたくて。でも他の人は観てほしくないんです。私が出ている蜷川さんのを観てもらいたいんです。でも『唐版 滝の白糸』って良くないですか。

N いいかもね。ちょっと観たいですね。（会場拍手）

『唐版 滝の白糸』の一一番初めは、ゴーストタウンに長屋があって、そこに運送屋がタンスを運び長屋の空き地に置くんです。そうするとタンスの扉が「ギー」と開いて、タンスの中から主人公が出てきて、洋服ダンスの上にパッと乗ります。その主人公は、夜の商売をしているようなホステスとか、そういう感じの女の人が出てくるんですが、そのようなビジュアルからいってもそれは確かにぴったりだね。

唐十郎とか日本でいえば前衛的な劇作家の戯曲って好きなの。

T 大好きです。だから『血の婚礼』も大好きです。そういう理屈でない、その熱でワードを盛り上げられるものというは、演劇の醍醐味のような気がします。そこは映像でも出来ない。何かそのダイナミックさでは、すごくリアルではないですか。映像の世界を舞台に持ってきて、舞台の人が映像をやったり、最近では『東京タワー』もそうですが、同じものを舞台やテレビでやったりしています。そうではなくて舞台でしか出来ないもの、映像でしか出来ないものがある気がします。そういう意味では、蜷川さんの舞台は、やはり舞台でしか出来ないもので、絶対やりたいですね。



寺島しのぶ（てらじま しのぶ）

1972年生まれ、京都市出身。母は尾上菊五郎、母は富司純子、弟は尾上菊之助という、演劇・俳優一家。大学在学中より、テレビドラマ、舞台、映画などで活躍。演劇では、昨年の『春く女』で第6回朝日舞台芸術賞（舞台芸術賞）第14回新演劇賞（最優秀女優賞）第11回「続き2回目」をダブル受賞した。また、映画では「赤目四十八歳心の未遂」で2004年に第27回日本アカデミー賞（最優秀主演女優賞）、第46回ブルーリボン賞（主演女優賞）などの主要な映画賞を総なめにするなど、日本を代表する実力派女優。毎年1月には主演映画「愛の波別地」が公開、2月には行定勲監督の『POOL FOR LOVE』に出演。大きな話題を呼んだ。彩の国シェイクスピア・シリーズでは第6弾「テンペスト」に出演した。



彩の国シェイクスピア・シリーズ 第18弾

オセロー OTHELLO

蜷川幸雄、ヴェニスへ。

今、自分が『オセロー』を演出するのは何故か?

その答えを発見するために旅に出た。

デズデモーナを演じる蒼井優を伴っての旅で確信したものは、

ローマ文明に息づく巨大な神話世界の中で翻弄される純粋な2人の魂

—オセローとデズデモーナの悲劇を描くこと。

悲劇の演出家による最高傑作誕生の予感だ。

文=木俣 冬(フリーライター)

interview インタビュー

蜷川幸雄 YUKIO NINAGAWA



特別番組撮影のため、ヴェニスにて(テレビ朝日系9月放映予定)

ヴェニスに行ったのはこれで4回目。2度目の『オセロー』を演出するに当たり、舞台であるヴェニスにもう一回行って、ちゃんと見てみたかったんです。なぜ『オセロー』なのか?を検証するために。

神話の崩壊を描きたい

サンマルコ広場に立つと、真夜中にここをデズデモーナが駆け抜けて、ドゥカーレ宮殿の階段を駆け上がるというシーンが浮かびます。一緒に行ったデズデモーナ役の蒼井優ちゃんは、実際に階段をあがってみて、「来てよかった」と言っていました。ここで感じたことを演技に生かしてもらいたいですね。

夕暮れになると、サンマルコ広場にさーっと西日が当たり、黄金に光る。黄昏の聖なる時間を味わえました。

ヴェニスに来て改めて感じたのは、豪奢な貴族社会や支配体

オセロー、黄昏の神話



制下にあって、徹底的な美意識に取り囲まれている世界だということ。ゴンドラが運河を流れるように、ゆったりとした時間が流れている。我々アジアの人間から見ると異質な神話的時間と空間なんです。

そういった繊細で豪華の極みを尽くした世界の中で、異分子である黒人のオセローが、その世界の代表的存在である白人の大貴族の娘と結婚することは、一大悲劇だと確信しました。美しく無垢な魂は必ず邪悪なものに破れるに決まっているものです。

豪奢の極みヴェニスから、物語は戦場の最前線キプロスへ。そこでは男の闘争心が露わになる場所。ヴェニスの神話は男達の汗や暴力で壊れていきます。嫉妬やねじまがった鬱屈を抱えたイアゴーが神話を崩壊させていくんです。

僕は今度の『オセロー』で、ひとつ神話の崩壊を描きたいと思います。

ストーリーの光と闇を担う、主人公オセロー

『オセロー』はオセロゲームの語源のごとく、黒が一転白になるように、ともすれば旗手イアゴに視点が行ってしまう作品。出世のために手練手管で上司オセローを追い込む役割に魅力を感じてしまうのだ。名優が演じる役でもあり、かつて中村勘九郎(現十八代目勘三郎)もイアゴを演じている。実際ケネス・ブラナーがイアゴを演じた映画版『オセロー』(96年)はかなり意識的にイアゴを中心据えていた。

しかし蜷川幸雄が言うようにあくまでタイトルが『オセロー』だから、失墜する巨星オセローの物語として味わうのが王道。オーソン・ウェルズ主演の映画版は愛あるオセローの表情に心惹かれしローレンス・オリヴィエ主演の映画版(舞台版とほぼ同じに撮られたもの)は激しくセクシャルで自信に満ち溢れている(登場の仕方も圧巻)。

伝統美術用の撮影時、吉田鋼太郎は「エキゾチック、エレガント、情緒の三本柱でオセローに挑む」と語った。高橋洋もハムレットの次に台詞が多い難役・悪の華イアゴに國志を露わに。吉田と高橋は何度か共演しているが今回ほど密に絡むのははじめて。パワフルな舞台俳優同士、強烈な熱放射をしあうだろう。一方、撮影時白いドレスを着た蒼井優は、儚そうでいてオセローを最後まで愛する強さをもったデズデモーナにふさわしく、清らかで侵しやがり光りをたたえていた。蜷川の言う「神話の崩壊」という美しくも壮大な悲劇を背負うのにふさしい俳優たちだ。



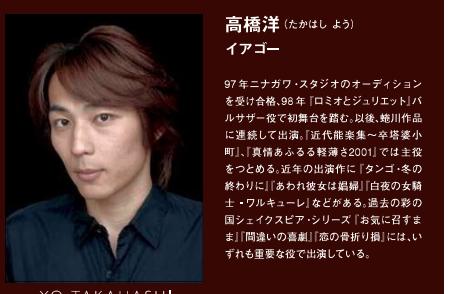
吉田鋼太郎 (よしだ こうたろう)
オセロー

蜷川演出舞台では「コリオライン」「オレステス」「タイタス・アンドロカウス」「凱旋の喜劇」「メティア」「オイディップス」「グリークス」等多くの作品に出演。タイトルロールを演じた「タイタス・アンドロカウス」の英國公演(2006)では船員を浴びたほかに、栗山民也演出「裏服の似合うエレクトラ」、ジョナサン・ケント演出「ハムレット」など、様々な演出家の舞台に出演している。第6回演劇大賞男優賞、第36回紀伊國屋演劇賞個人賞などを受賞。



蒼井優 (あおい ゆう)
デズデモーナ

99年ミュージカル「アニー」で約1か月の中国から渡され、デビューや01年「リレイシヨンズのすべて」で映画デビュー。その後、若手女優の中でもどんな役でもアリエティを持った演技力として高く評価され、女優賞を絶縁なしで獲得。女優としてのキャリアを重ねて、蜷川演出舞台は04年の「シビヤから遠く離れて」以来2度目となる。



高橋洋 (たかはし よう)
イアゴ

97年ニナガワ・スタジオのオーディションを受け合格。99年「ロコドリュリエット」パルサーエピト典舞を踏む。以後、蜷川作品に連続して出演。『近代能楽集』・『半塔婆小町』・『貴賤あらはる』・『春暉』2001では主役をつとめる。近年の出演作に「タンゴ・冬の終わり」(あわせ後は後編)・『白蛇の女騎士・ワルキューレ』などがある。過去の影の国シェイクスピア・シリーズ「お気に入り」・「間違いの恋劇」「恋の香折り鏡」には、いずれも重要な役で出演している。

因縁深き「オセロー」

実は『オセロー』には因縁があるんです。以前、ベルリン・ドイツ・オペラでオペラ『オテロ』の演出をやる企画があって、現地で打ち合わせましたにも関わらずやらなかつたんです。指揮者ジュゼッペ・シンボーリと当時の総裁ゲツ・フリードリヒにも会いましたよ。でも結局オペラはヨーロッパには敵わないなあって思つて……。そういうふうに、あの時泊まったホテルにも西日が射し込んでいた。僕には『オセロー』と言えば、ベルリン、西日というイメージがあります。

今度はしっかりやりきりたいですね。



彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾『オセロー』

[日時] 10月4日(木)~10月21日(日) 全18公演

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出] 蜷川幸雄 [作] W.シェイクスピア [脚] 松岡和子
[出演] 吉田鋼太郎 蒼井優 高橋洋 馬渕英俊可 鈴木豊 山口真木也 増島啓祐
[チケット(税込)] 小学生500円 中学生800円

一般 A席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円

メンバーズ S席8,100円 A席6,300円 B席4,500円

OCTOBER 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

毎日 木 金 土 月 火 水 木 金 土 月 火 水 木 金 土 月

13:00 ●

19:00 ●

『コリオレイナス』 演劇祭BITE バービカン劇場・4月公演レポート

英国演劇の重要拠点のひとつ・バービカン劇場。ここではかつて『身毒丸』『リア王』『近代能楽集』など、彩の国さいたま芸術劇場から生まれた数々の作品が上演された、縁深い場でもある。

バービカン劇場で行われる世界各国から優れた演劇を集めて行われる

演劇祭BITEの10周年記念事業に『コリオレイナス』が招待された。

ローマ武将の物語に日本の侍魂を重ねて作られた蜷川演劇に、

英国人達は何を見たのか……？

文=木俣 冬(フリーライター)



劇場棟入り口



BITE会場となったバービカン劇場

蜷川幸雄はイギリスでも鬨っていた。本番前のマスコミによるフォトコールが終わると「もう一回やってくれないか」とカメラマンが頼んだ。ローマとヴォルサイの戦闘シーンがあまりにスピーディで撮れなかつたらしい。蜷川は「本番前に俳優をこれ以上動かせないからやらない」と断った。「撮れないのは才能の問題だ」と言う毒舌も通訳されたかは不明。でも蜷川はそれらしきポーズでイメージカット(コリオレイナスとオーフィディアスの一騎打ち)を撮ることはOKした。

蜷川は今回イギリスでは異例の40人以上の俳優で舞台を作ることに挑戦したが、既に英国人は、40人の俳優達が急勾配の階段を縦横無尽に走り回ることに圧倒されていた。

蜷川は事前に英國の新聞に、「今後英國でも英國俳優とやるのはではなく日本人俳優としかやらない」と宣言していた。ギリシャ悲劇がもとになったヨーロッパ演劇は対話がベースになっているが、日本演劇は言葉よりも視覚だという蜷川の意志のひとつがこの大人数だった。

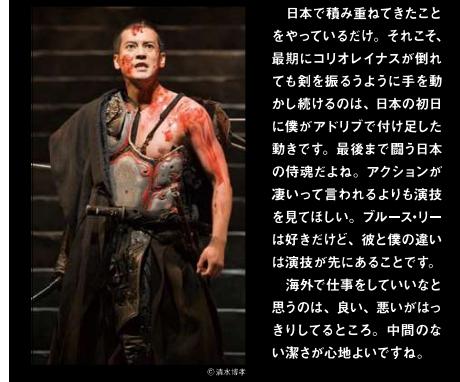
日本の民衆の姿に英国の一市民が共鳴

バービカン劇場は4階まで客席でしかも中通路がないため、舞台からは観客で密集した巨大な壁のように見える。天井桟敷から舞台を見下ろすと目眩がしそうな高さだった。開演前に鐘のような防火シャッターにぼんやり映った観客の姿は既に圧巻で、扉が開くと更に装置の鏡が用意されているからより明瞭になるその物量の迫力と、舞台上の俳優40人が対峙する様はトリッキー。

英國に対峙する日本という強い意志を感じた。

専門家の意見は知らないが、ロビーで話しかけた中年男性は「日本で一番有名な演出家の舞台と聞いて初めて見に来た」と言い「俳優が階段から落ちる演出にはビックリした。俳優の懸命さに迫力を感じた」と目を輝かせていた。「蜷川さんとの信頼関係があるから階段落ちもやれる」と軽げ落ちる民衆を演じる俳優はそう言う。蜷川と俳優たちの熱は市井の英國人の心を揺さぶった。

「演技が先にある」 唐沢寿明(初日パーティーにて)



日本で積み重ねてきたことをやっているだけ。それこそ、最期にコリオレイナスが倒れても剣を振るうように手を動かし続けるのは、日本の初日に僕がアドリブで付け足した動きです。最後まで闘う日本の侍魂だよね。アクションが凄いって言われるよりも演技を見てほしい。ブルースリーは好きだけど、彼と僕の違いは演技が先にあることです。

海外で仕事をしていくと思うのは、良い、悪いのははっきりしているところ、中間のない潔さが心地よいですね。

©清水博子

維新派 nostalgia

(彼)と旅をする20世紀三部作 #1

広がり続ける風景

群青色の夕空や劇場の青い光を背景に浮かび上がるモノクロームの街。繊細な切り絵のような、その影の間を白塗りの少年少女たちが駆け抜けていく。幾何学的な動きを繰り返しながら足踏み行進する様子はまるで、古いニュース映画で見る街のけん賀のよう。タダタ/パンパン/コンキチキ……、擬音と大阪弁を交えた台詞はやがて言葉としての意味を失い、音となり風景となって、私たちを“どこか懐かしい街”へと案内する——。

山頂にする深呼吸は、自分と周囲の自然との一体感を確かめたいという願いの表れだが、維新派の舞台を目前にした時の気分もそれに似ていると思う。深々と周囲の空気を吸い込みながら、私は台詞でも物語でもない、維新派の「風景」をこそ共有したいと願っている。

彼らの街でよく描かれるのは、鳥打ち帽や半ズボンといったモチーフに代表される少年時代への甘い哀愁の念、そして戦争や殺人など、社会生活に潜む殺伐とした狂氣や不条理感。それらはどれも、いつか身に覚えのある場面として、われわれの五感の記憶を鋭く刺激する。

PROFILE 維新派
1970年、創作・演出家の松本雄吉を中心に、活動を開始。劇団員自らが建設した野外劇場での公演で、関西の実験演劇の担い手となる。コンセプトは“しゃべらない台詞、歌わない音楽、踊らない踊り”で、壮大な装置、単錆・複音の羅列が五拍子や七拍子といったリズムに乗せて発せられる“大阪弁ケチ”、と呼ばれる発語スタイル、行進や隊列を軸とした振り付けで、独自の「場」の演出に取り組んでいる。(水街)(99年)、キートン(04年)といった地元・大阪南港の夜景を取り入れた作品群、野球グラウンドを使った「さしま」(01年)、離島の精霊伝説を上演した「カクカラ」(02年)など、周囲の環境を取り込む「野外劇の道」としての存在感は不動。新作「nostalgia」は、「nocturne」(03年)「ナソツビ」(05・06年)に続く、3作目の本格的な劇場公演。既成の劇場ならではの舞台機械や技術を生かした緻密な空間設計に期待が高まる。

Ishinha Chronicles

「キートン」2004 大阪南港
「ナソツビ」2005 ケキョウ・プラント
2006 大阪・梅田芸術劇場
維新派公式サイト <http://www.ishinha.com/>
「nostalgia」特設ページ <http://www.ishinha.com/nostalgia/SP/>

インバル・ピント待望の新作、世界初演



作品発表ごとに話題をさらい日本でも人気の振付家インバル・ピントと、盟友であるアヴァシャロム・ボラック。彼等の舞台にはしばしば奇想天外な生き物や人物が登場。一瞬にして観客をポエジー溢れる異世界へと誘う。ファンタジーや闇、ユーモアやノスタルジーが渾然一体となった、あるいは希望と恐れとか入り交じるいつかみた夢を想わせる世界。誰もが自分の中に重ね合わせて感じることができる。彼等の舞台が大人のみならず子どもたちをも魅了する理由はそこにある。

11月に埼玉で世界初演される新作だが、インスピレーションの源のいくつかは日本の文学や音楽、とりわけ宮澤賢治の物語だという。彼等の創作のスタートティング・ポイントでもある

PROFILE

インバル・ピント・カンパニー Inbal Pinto Dance Company



インバル・ピント(右)とアヴァシャロム・ボラック(左)が率いるインバル・ピントカンパニーは、1994年の結成以来、「オイスター」(99年)、「ブーピーズ」(02年)等、革新的で、想像力豊かな傑作を発表し続け、世界でもトップクラスの人気を集めている。昨年の美日公演は、NHK教育「芸術劇場」で放送され、大きな話題を呼んだ。インバル・ピントは、グラフィック・デザインを専門とした後、バトシ・バ舞踊団に参加し、ダンサー・振付家として活躍。92年にアヴァシャロックと共に、94年カンパニーを結成。「Wrapped」(98年)で、ベーシー賞を受賞。カンパニーとしての活動以外にも、オペラや演劇の振付も行っている。アヴァシャロム・ボラックは、俳優として数多くの映画やテレビに出演するとともに、シェイクスピアやチャーチーの舞台にも出演。インバル・ピントとカンパニーを結成して以来、全ての作品を、共同で創作している。

スケッチや水彩でのデッサン、ダンサーたちとの対話をとおしたリサーチは既に始まっている。新作には日本からも大植真太郎と森山開次の二人がダンサーとして参加する。本格的なリハーサルは8月のイスラエルにて。次号ではその模様もお伝えしたい。どのような仕掛けで日本の観客を驚かせてくれるのか、彼等から目が離せない。

速報 インバル・ピント・カンパニーの過去の作品からスケッチや舞台写真を集めた展示を開催

***** EXHIBITION *****

インバル・ピント・カンパニー スケッチと写真展

【日時】7月24日(火)～公開 9:00～22:00 休館日を除く
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア 入場無料



大植真太郎 (おおうえ しんたろう)

1992年より活動し、ハブルク・バレエ団、ネザーランド・ダンス・シアター、カルペリーハレエを経て現在フリーザ。スウェーデン国立オペラ、カルペリーハレエ、Nostr06等に振付。ダンサー・振付家として国境を越えて活躍している。『deja』(05年)でハーファー国際振付コンペティションにて最優秀賞受賞。ノルディック・グラントにて最優秀賞ならびにオーディエンス賞を受賞。



森山開次 (もりやま かいじ)

しなやかながら強靭で、空間を切り裂くような独特の表現に定評があり、2001年エディンバラ・フェスティバルにて「今年最も才能あるダンサーの1人」と評される。神社境内での公演、前と/or/アバボレッシュなど実験的な活動を国内外で慶祝。05年ソロ作品「KATANA」で「異質のダンサーによる驚くべきダンス」(ニューヨークタイムズ)と評され、07年6月にはバネチチ・ビエンナーレにて新作発表など躍進を続ける。映画「茶の味」、NHK「からだあそば」出演等幅広い分野での身体表現に積極的に取り組んでいる。

***** DANCE *****

国際共同製作

インバル・ピント・カンパニー 新作2007

(世界初演)

【日時】11月 9日(金) 開演 19:30 / 10日(土) 開演 15:00 / 11日(日) 開演 15:00
※9日の公演終了後、インバル・ピントとアヴァシャロム・ボラックによるポスト・パフォーマンス・トークを行います。

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】新作2007【世界初演】【振付・演出・衣装デザイン・舞台美術デザイン】インバル・ピント&アヴァシャロム・ボラック

【出演】インバル・ピント・カンパニー 大植真太郎 森山開次

【チケット(税込)】

一般 S席 6,000円 A席 4,000円 学生 A席 2,500円 メンバーズ S席 5,400円 A席 3,600円

【発売日】メンバーズ 7月21日(土) 一般 7月28日(土)

essay 文=山形浩生(文筆家)

インバル・ピント・カンパニーのダンスを特徴づけるのは……と書きかけて、人は頭をかかえることになる。彼らの作品は、一作ごとにまったくちがう。一貫したトレイドマーク的な様式があるわけでもない。

そしてむしろそれこそが、イスラエルで活躍する彼女たちの作品の特徴だ。一作ごとに、仕掛けは大きく変わる。ダンサーの身体にだけこだわり続けるようなストイックな審美性の追求は希薄で、むしろ多種多様な要素を思いつくままにぶちこんだ、グロテスクさとユーモラスさを前面に打ち出しが多い。「オイスター」では義肢や人体の補助的な延長を多用し、生身の身体と機械を接合させたような、ちょっと不気味でありながら、それ故に観客の目を捕らえて離さない動きの連続を演出してくれる。あるいは「ブーピーズ」のように、半魚人をはじめとして人間でないものがひたすら跳躍跋扈する、異世界探検系SFアニメ(懐かしい「ファンタスティック・プラネット」を思わせる)を再現したような舞台。いずれも洗練されすぎないカーニバル的な猥雑性とパワーが魅力だ。

実は彼女たち以外にも、イスラエルは現在急激に文化的存在感を高めつつある。ダンスの分野では他にイツィク・ガリリが世界的に評価を高めている(かれも猥雑さが売りだ)、音楽分野でもイスラエル・トランスはすでにダンスマュージックでは確固たるジャンルだ。科学や経済学、文学などの分野でも、イスラエル出身者の活躍は目覚ましい。

その多くに共通するのは、外部の各種の要素を貪欲に取り込むもうとする意欲だ。イスラエルは、ユダヤ人国家という出自や戦争報道から、排外的なナショナリスト的印象を一部では持たれている。しかし一方で、同国は世界各地にいたユダヤ人のごった煮だ。そして現在でさえ、兵役やキブツでの勤労などの義務を果たした若者は、ご褒美に国費で世界旅行させてもらえる(といって出るのは最初の拠点までの往復の航空券だけだが)。日本でも、道ばたでグラクタ小物アイテムを売っている白人をときどき見かけるけれど、あれはそうした世界漫遊中のイスラエル人の潜在費稼ぎであることが多い。かれらが持ち帰る世界文化が、イスラエル文化には大いに影響していると言われる。

それはインバル・ピント・カンパニーにも顕著に感じられる。固定されたアイデンティティにとらわれない無節操なまでの変幻自在ぶりや、生真面目さに墮すことのない泥臭さやユーモアのセンスは、自由なコスモポリタン的感性の反映だ。

talk・talk・talk 第6回

GUEST
コンドルズ

CONDORS



5月に開催されたコンドルズの埼玉スペシャル公演「太陽にくちづけ007 トウモロー・ネバー・ダイ」は、連日大盛況のうちに幕を閉じた。終演後のトーク・イベント<talk・talk・talk 第6回>には近藤良平と勝山康晴が登場。当財団ダンスプロデューサー佐藤まいみのナビゲートで、人気ダンス・グループの創作の秘密に迫った。結成10周年を迎えた彼らは今回、1996年のコンドルズ旗揚公演のタイトル「太陽にくちづけ」を再び使ったわけだが、そこには「昔をぶち壊したい」という思いをこめたという。観客との質疑応答の一部をここに紹介しよう。

近藤 皆さん、今日は本当にありがとうございました。それでは何か質問ありますか？

質問者A いつもステージに大勢の方が出ていますが、それをどうまとめているのですか？ 今日の劇中劇でも、勝山さんが「やーめた！」と叫ぶシーンがありましたが、実際のリハーサル中も似たような局面があるのです？

近藤 とても大事なのは、僕を含めてみんな忘っぽいんですよ。だから怒ったり、やめたいと思っても、次の日には忘れている。だからコンドルズ結成から10年も続けられた気がします。僕は一応ボスですが、「まとめよう」と思ったことはないですね。

勝山 私はプロデューサーという立場上、ある程度まとめざるを得ないことはあるけど、これまで重視してきたのは、練習とか舞台の時以外はメンバーに会わない努力を徹底的にすることでした。フレッシュさを保つうえで大事ですね。

質問者B コンドルズを見ると一番印象に残るのが音楽です。選曲の仕方ですが、曲を聴いてイメージが浮かぶのか、それともダンスが浮かんでそれに合う音楽を探すんですか？

勝山 非常にアーティスト・トーカらしい質問が出ました。

近藤 音楽は、ロック関係は勝山さんがセレクトし、民族チックだったり、ちょっと小さな音の曲は、ほとんど僕が選んでいます。

勝山 そして基本的に振付が先ですね。曲に振りを付けたのは、昔から一度もないと言つていい。

近藤 これ、すごく大事なこと。世の中では曲が先行なことが多いのです。それだと本当に音しか聴こえてこないし、観ている人も、音を追いかながら動いている人を観てしまう。僕は無音の世界が好きなので、はじめに無音の空間で振りを作り、そこ

に適当に音を流して「意外に合うじゃん」と思って付けていきます。生身の人間が、無音でもある程度動けるようになったところで音が鳴ると、観ている印象が変わってくるんです。コンドルズの照明を担当している坂本明浩さんも、練習のときには風景の全部の音を絞り、動きだけを見て照明プランを立てていますね。

勝山 音楽に負けないパフォーマンス、パフォーマンスに負けない照明、それらが拮抗するから、毎回感動的な舞台をお届けできるわけです（拍手）。

質問者C 休みのときは何をしていますか？

近藤 とても面白い質問ですね。僕は犬と散歩するのが本当に大好きなのです。あとは家のリフォームをしています。トンカントンカンするのが好きなんですね。

勝山 アニメを見ています。日常生活で疲れたときには二次元の世界。次元が変わった瞬間に心が癒されるのです。

質問者C どんなアニメを見ていますか？

勝山 それを話すと止まらなくなるからやめた方がいいよ（笑）。

質問者D これからのコンドルズの野望は？

近藤 難しいですね……でも、とてつもなく大きいキャンピングカーは欲しい。メンバー全員で乗って、旗とかを立てて移動して、砂浜でバーンと公演をやったら気持ちいいだろうな。きっと実現しないけど（笑）。

勝山 コンドルズを続けていくこと。「打倒ローリング・ストーンズ！」で、65歳になってもメンバーの遺影を持ちながら踊り、ぶつ倒れてもやる、というのが目標ですね。あとは来年もさいたま芸術劇場で公演したいですね（拍手）。



昨年の熊谷会館のコンサートから

埼玉会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストランド！

昨年熊谷で大好評だった『夏休みオーケストランド！』がたくさんの熱い思いにこたえて、この夏休みに埼玉会館にやってくる。今年も「子どもたちから通な音楽ファンまで音楽を楽しんでもらいたい！」という願いとパワーに溢れるプログラム。また、埼玉県在住の小学生ピアニスト、尾崎優衣さんもモーツアルトの協奏曲で出演。その聴きどころを前回の思い出とともに、昨年に引き続き登場の指揮者・飯森範親さんが語ってくれた。

interview インタビュー

飯森範親

僕は素晴らしい音楽は、ロックだろうが演歌だろうが子どもたちの純粋な心に届くと思っているんです。

この東京交響楽団というオーケストラは、本当に子どもたちの心をつかむ気持ちで演奏しています。演奏は一方通行じゃないんですね。舞台上から見える子どもたちの顔を我々も感じています。子どもたちの顔がますますよくなるように思っている。そして実際にその顔が輝きだして来るのが伝わってくると、「よし、もっと輝かせてやろう！」と思うんです。それができるのがこのコンサートですね。

一番最初のとっかかりは、《ウィリアム・テル》序曲から行進曲をやります。テレビでもよく流れるし、みんな「あっ、これ聞いたことがある」と思ふんじゃないかな。それから2曲目はディズニーのメロディーを使った曲をやりますが、これは「音楽のディズニー・ランド」という感じなんです。なおかついろんな楽器の特色がこの1曲に入っていてね、凝っているんですよ。実はこの曲は、ブリテンの《青少年のための管弦楽入門》がもとになっている。ブリテンが1600年代のヘンリー・バーセルという作曲家のメロディーを使って、青少年に聴かせる管弦楽を作ったんです。そのパロディーなんですね。聴くとブリテンを知っている人は、なんだこれって思うと思いますよ。構成はそっくり。これを作ったのは、東京交響楽団から楽器を紹介する曲を作つてほしいという依頼を受けたコントラバスの小室さんですが、ものすごくよく出来ている。すごくいい曲です。去年のこのコンサートでも大好評でした。

去年の熊谷会館では、来てくれた子どもたちと一緒に演奏するコーナーでヴァイオリンを持ってきた子がたくさんいたんです。みんな立って弾いてくれてね、ちゃんと練習しててくれていたんですよ。かなり会場が一体になった感じでした。子どもたちだけでなく一緒に来た親御さんもみんながコンサートに参加してくれるっていう感じで、それがすごく印象深かった。親子で楽しめる去年のコンサートの光景は、今でもよく覚えています。



© 幸井真

僕は何を感じてほしいかっていうより、子どもたちが感じることは千差万別だと思います。だからこちらから押しつけがましいことはしないんですけど、でもね絶対楽しいから！ このコンサートは絶対楽しい2時間だから、ぜひ来て楽しんで行ってほしいと思っています。

MUSIC

埼玉会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストランド！

【日時】8月5日(日) 朝演 14:00 【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】飯森範親(指揮) 芦岡鈴(ピアノ) 尾崎優衣(ピアノ) 東京交響楽団(管弦楽)

【曲目】ロマンニ: 歌劇《ウィリアム・テル》序曲より 小室昌広: ディズニーのメロディーによる管弦楽入門

モーツアルト: ピアノ協奏曲第2番 イ長調 K.488 より 第1楽章(ピアノ: 尾崎優衣)

ウーラム: ミス・スーター・ウォーズ・メドレー ~指揮者にチャレンジ!~(公演当日、開演前に参加者募集、抽選。)

ピゼ: 歌劇《カルメン》前奏曲

~みんなで歌おう&演奏しよう!~(歌や好きな楽器でオーケストラと共に!) 木村弓: 映画「千と千尋の神隠し」より(いつも何度も)

エルガ: 行進曲《威爾第祭堂》第1番 二長調 Op.39

チケット(税込) [\[チケット購入\]](#)

一般 S席 大人4,000円 こども(中学生以下) 2,000円

親子セット(大人1枚+こども1枚) 5,500円

A席 大人3,600円 こども(中学生以下) 1,500円

親子セット(大人1枚+こども1枚) 4,500円

メンバーズ S席 大人3,600円 A席 大人3,150円

※ご来場のお子様(6歳未満)のご入場はご遠慮ください

※ご来場のお子様(6歳未満)の場合は、埼玉会館・館の園といった芸術劇場・熊谷会館にお申し込みください。



© 加藤英弘

NHK交響楽団

～グリーグ没後100年・シベリウス没後50年記念～

最高の組み合わせで北欧の作曲家二人を聴く

常に最上の音楽的な時間を届けてくれる、オーケストラ・NHK交響楽団。

N響の略称で親しまれるこのオーケストラで今年没後記念の2人の作曲家、

ノルウェー出身のグリーグとフィンランド出身のシベリウスの代表曲が聴ける贅沢なコンサートを堪能したい。

グリーグの協奏曲には特別な思い入れがあるという、円熟のピアニスト・仲道郁代とN響の共演も必聴だ。

Ikuo Nakamichi

仲道 郁代



© Megu



© Katsuro Ueda

藤岡 幸夫 *Sachio Fujioka*

文=片桐卓也（音楽ライター）

2007年は北欧のふたりの作曲家の記念イヤーである。ひとりはノルウェーのエドワルド・ハーゲルップ・グリーグ（1843～1907、没後100年）、もうひとりはフィンランドのジャン・シベリウス（1865～1957、没後50年）。彼らの代表的な作品を演奏するのは、NHK交響楽団と指揮者の藤岡幸夫、そしてピアニストの仲道郁代。きっと名作の新たな魅力を教えてくれるだろう。

グリーグの作品の中で最も有名なのはイプセンの劇のために書いた付随音楽《ペール・ギュント》、そして《ピアノ協奏曲》だ。いずれもグリーグの若い時代に作曲された作品で、作曲家が意欲的に大作に挑んでいた頃の作品である。《ペール・ギュント》は30代の初め、そして《ピアノ協奏曲》はまだ20代半ばの作品なのだ。

『ペール・ギュント』は非常にユニークな劇で、自由奔放な主人公ギュントが世界の様々な場所を旅して、また故郷に戻ってくる物語。グリーグは1874～75年にその劇のための音楽を書き（劇の初演は1876年）、そこから計8曲を選んで、2つのオーケストラ用組曲にまとめた（1888、1891年）。いずれも一度は耳にしたことのあるメロディだろう。特に〈朝の気分〉〈ソルヴェーグの歌〉は有名である。

また《ピアノ協奏曲》は作曲家唯一の協奏曲で、現在でもよく演奏されるピアノ協奏曲のひとつ。演奏する仲道さんに、作品についての思い出を語って頂いた。

「最初に演奏したのは、たしか小学校6年生か中学校1年生の時でした。その時に使った楽譜をいまだに使っているぐらい、愛着のある作品です。イタリア語の楽譜の読みとか意味を、自

藤岡 幸夫（ふじおか さちお）

故渡辺雄三、小林研一郎、松尾葉子に師事、サー・ゲオルグ・ショルティのアシスタントを務める。英国王立ノーヴィン音楽大学指揮科卒。日本フルート指揮研究員を経て1990年に渡英、94年にBBCフィルハーモニー管弦楽団に就任。ロンドンの名物「プロムス」にデビュー。2006年スペイン国立オーケストラ指揮者（デビューカー）、大成功を収め、09年に首席客演決定。現在、関西フルーハーモニーピアノ合奏団正指揮者。02年度渡辺雄三音楽基金音楽賞受賞。

<http://www.sachio-fujioka.net>

仲道 郁代（なかみち いくよ）

古典からロマン派までの幅広いレパートリーで、独奏者・オーケストラソリストとして国内外で活躍。2005年には、英国チャーチル賞受賞者大妻ご両親のもと、ギリシャ室内オーケストラ主催の「結婚祭典コンサート」に出演し絶賛された。03年からは、地域社会の活性化や音楽文化の発展を目指し、大阪芸術大学特任教授、財团法人人地城創造理事として活動中。デビュー20周年にあたる06.07シーズンは、全国各地で記念リサイタルを行っている。

<http://www.ikuo-nakamichi.com>

NHK交響楽団

1926年に日本初のプロ・オーケストラとして結成された新交響楽団が、日本交響楽団の名稱を経て、51年NHK交響楽団と改称。今日に至るまで、カラヤン、ストラヴィン斯基、アンゼルメ、マタチチなど世界一流指揮者を次々と招聘し、歴史的名演を残している。国内外での演奏会のほか、定期的な海外公演、セミ・ステージ・オペラなどの新演出企画、委嘱作品の実現、マジック・レベルとのCD録音など、その活動と演奏は国際的にも高い評価を得ている。

私がグリーグの協奏曲がくれたもの（仲道郁代）



© Kyojika Saito

グリーグのピアノ協奏曲にまつわる、懐かしい思い出は、父の転勤で中学時代にアメリカに住んだ時のものです。慣れない異国の生活で、言葉も十分に出来ないので、なかなかクラスの中に溶け込めないでいたのです。そんな時に先生が「あなたはピアノが弾けるんでしょ。それならばなにか弾いてござんなさい」と褒めてくれて、それでグリーグの《ピアノ協奏曲》の第3楽章をみんなの前で弾いたんですね。そうしたら、クラスメイトがみんなびっくりして、一躍クラスの人気者に。そんな経験もあって、グリーグは思い出深い作品なんです。

••••• MUSIC ••••• NHK交響楽団

～グリーグ没後100年・シベリウス没後50年記念～

【日時】10月19日(金)開演19:00 * 18:20～18:35 指揮者によるプレトーク
【会場】琦玉会館 大ホール
【出演】藤岡幸夫(指揮) 仲道郁代(ピアノ) NHK交響楽団(伴奏)
【曲目】グリーグ:《ペール・ギュント 第1組曲》Op.49より 朝の気分、アニアの踊り
《ペール・ギュント 第2組曲》Op.55より ソルヴェーグの歌
ピアノ協奏曲 第2番 Op.16 (ピアノ:仲道郁代)
シベリウス:交響曲第1番 ホ短調 Op.39
【チケット(税込)】好評発売中
一般 S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 学生B席2,000円
メンバーズ S席5,400円 A席4,500円 B席3,600円

声に満たされる秋

文=岩下真好（音楽評論家）

彩の国さいたま芸術劇場は、今年の秋、珠玉の歌に彩られる。実力と人気を兼ね備えた日本声楽界の若きスター宮本益光が9月末に、そして10月末にはドイツ歌曲の第一人者として世界中に知られる白井光子が、それぞれリサイタルを開く。座席数600の音楽ホールで、二人の名歌手の歌を味わい尽くせると、なんという贅沢だろう。大きな会場とは異なり、このホールでは、どの席も特等席だ。どんなに繊細なピアニッシモも、微妙なニュアンスも、間近く分明に聴き取ることができる。歌い手の表情や身振りも、はっきりと見て取れる。聴き手のひとりひとりが、等しく、耳と目で歌手をひとりじめできるのだ。これぞ至福の「楽興の時」だ。

白井光子はシューマンを歌う。もちろんピアノは、35年にわたってデュオを組んで、ドイツ歌曲の解釈と共に深めてきたハルトムート・ヘル。今、この分野で世界最高水準の演奏が期待できる。

今回のコンサートで取り上げられる《リーダークライ》作品39は、シューマンがドイツ・ロマン派の詩人アイヒェンドルフの詩12篇を選んで編んだ歌曲集で、現世を越えて恋人と永遠に結ばれることへの切なる憧れが全曲の底流をなしている。戀想と他界した父母への愛惜、孤独と自然界の神祕、愛の高まりと幸福、夢と現実、別れと死。それらが交錯するうちに歌が進み、愛する人の永遠の恋慕へと結晶してゆく。この歌曲集の作曲当時のちに妻となるクララとの恋愛を阻む障害との闘いを余儀なくされていたシューマンは、不安と愛の確信とのあいだに揺れる自身の思いを、アイヒェンドルフの詩篇に重ね合わせ、それに歌の翼を与えていたのだった。シューマンは、クララに「ぼくが書いた最もロマンチックな音楽であり、きみがいっぱい出て来るのだよ」と書き送っている。

~~~~~



宮本益光

Masumitsu Miyamoto

東京芸術大学大学院修了。2003年（欲望という名の電車）スタンダードで脚本を浴び、翌年には二葉公会演宮本益門演出《リーダークライ》に主演で絶賛された。創造性とエンターテインメントにこだわったステージで観衆を魅了。テレビやラジオでも活躍している。オペラの日本語訳詞による歌の研究や対話を発表するなど多くのアワードを受賞。07年3月には自らが作詞した《あしたのうた》を含む新たなCD（加藤昌則作曲）をリリースした。二期会会員。

••••• MUSIC •••••

## 宮本益光バリトン・リサイタル

【日時】9月30日(日) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【出演】加藤昌則(ピアノ)

【曲目】山田耕介・赤とんぼ(詞:三木露風) グーラード:歌劇《タンホイザー》より「夕星の歌」

【曲目】山田耕介・赤とんぼ(詞:三木露風) グーラード:歌劇《タンホイザー》より「夕星の歌」

【チケット(税込)】好評発売中

一般 3,000 円 学生 1,000 円 メンバーズ 2,700 円

ドイツ歌曲は、歌詞として歌われる詩の言葉をとりわけ大切にすることにシューマンの歌曲は、音楽と詩とが渾然一体となって、ロマン的なファンタジーの世界を織り成してゆく。言葉のニュアンスや表情への繊細な感覚、美しい発音と発声、深みある表現と音色美といった諸点で他の追従を許さない白井の芳醇なメゾ・ソプラノに、表情豊かで感受性に富んだヘルのピアノ。シューマンの歌曲にとって、これ以上理想的な組み合わせはない。

いっぽう宮本益光は、ドイツ・オペラのアリアや、武満徹の作品をはじめ日本の歌曲を歌う。オペラで男声役というと、まずテノールを思い出しがちだが、決して男らしくて、ときには邪悪でニヒルであったりもして、じつは「かっこいい」のがバリトンの諸役だ。宮本は少し前にモーツアルトのオペラ《ドン・ジョヴァンニ》の主人公を歌って大きな注目を集めた。今回のコンサートでは、そうした危険な誘惑者の役ではなく、ワーグナーの《タンホイザー》のノーブルな騎士、ヴォルフラムのアリア「夕星の歌」を聴かせてくれる。プログラム中の大きな聴きものである。

オペラ《タンホイザー》の主な舞台は13世紀ドイツのヴァルトブルク城とその近郊の谷。妖艶な美女ヴェーヌスの誘惑に負けて道を踏み外した騎士タンホイザーを、清純な乙女エリーザベトが自分の命をかけて救済するという物語だ。ヴォルフラムはタンホイザーの友人で、友の回心を望んでいるが、密かにエリーザベトに好意を寄せておいた。だが、タンホイザーを救うために死を覚悟したエリーザベトの深い思いを知って、そっと身を引き、星空に向かって、いずれ彼女が清らかな天使として天に受け入れられるよう祈願する。雄々しく心優しい騎士が歌い上げる憂愁と懼れと祈り。この「夕星の歌」で、バリトンの声の魅力に醉い痴れることになるのは請け合いたい。歌詞の深い理解に長けた宮本の豊かな表現力にも心を打たれることだろう。

~~~~~



白井光子（メゾソプラノ）&
ハルトムート・ヘル（ピアノ）
Mitsuki Shirai & Hartmut Holl

白井光子＆ハルトムート・ヘルは「歌と伴奏」という概念を超えた「リートデュオ」としての活動を世界各地で行って来た。今年2007年はデュオとして35周年を迎える。1996年には長年のリート歌手としての活動を評価され光音美大賞を受賞。その後もドイツ語の深い解釈と集中力でリートの世界を広げ魅了し続いている。06年3月には、その長年の功績と前年の《冬の旅》演奏が認められ、白井光子に05年度第56回芸術選奨文部科学大臣賞が贈賞された。

••••• MUSIC •••••

白井光子＆ハルトムート・ヘル リートデュオ・リサイタル ~名歌手ショルツコップに捧ぐ~

【日時】10月27日(土) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】シューマン:リーダークライ Op.39

女の愛と生涯 Op.42

【チケット(税込)】好評発売中

一般 4,000 円 学生 1,500 円 メンバーズ 3,600 円

ロシアの美しき新鋭が奏でる、
詩情性溢れるロマンティシズムとダイナミズム



••••• MUSIC •••••

Vol.2 イリヤ・ラシュコフスキイ

【日時】9月8日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】シューベルト:4つの即興曲 Op.90 D899
ラームス:ハガニアの主題による変奏曲 Op.35
クリヤーピン:幻想曲 口短調 Op.28
ワーグナー:リスト:イーリーネの愛の死(《トリスタンとイゾルデ》より)
パラード:傭兵歌(《さまでよえオランダ人》より)
幻想曲(《リエゴン》最後の威儀民より)

【チケット(税込)】好評発売中

一般 S席3,500 円 A席2,500 円 学生A席1,000 円 メンバーズ S席3,150 円

ピアノ・エトワール・シリーズ

••••• MUSIC •••••

Vol.3 デイヴィッド・グレイルザンマー

【日時】11月23日(金・祝) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】ウェーベルン:わが青春はすでに過ぎ去り
グレン:ファンタジー どりえ2つのファンタストローフ(日本初演)
モーツアルト:幻想曲 ハ短調 KV475
ヒナスラ:アルゼンチン舞曲 Op.2
リゲティ:《ミジカ・リチュエルカ》より 6つの樂章
モーツアルト:ピアノ・ソロ第11番(奏譜 KV310)「トルコ行進曲付き」
グラナド:《コニセスカス》恋する私たちより(愛と死(バラード))

【チケット(税込)】一般 S席3,500 円 A席2,500 円 学生A席1,000 円 メンバーズ S席3,150 円

【発売日】メンバーズ 7月21日(土) 一般 7月28日(土)

ランチタイム・コンサート

第2回 アンサンブルクラルテ (N響メンバーによる室内楽グループ)

【日時】9月4日(火) 開演 12:10 (終演予定12:50)

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】横山俊朗・宮里親弘(ヴァイオリン) 小島茂隆(ヴィオラ)

三井正秀(チェロ) 新納益夫(コントラバス) 鈴木永子(ピアノ)

【曲目】エルガー:愛の旋律

マスニー:歌劇《カグラリア・ルスティカーナ》間奏曲

J.ショトラスⅡ:「ボルカ」詩、アンネン・ボルカ、

トリッカ・トラッカ・ボルカ

グリーブ:「2つの悲しい旋律」より(晩春)

チャイコフスキイ:花のワルツ

【チケット(税込)】好評発売中 全席指定1,000 円

●10月19日公演のチケット券

一般 S席6,500 円 A席5,500 円 B席4,500 円

メンバーズ S席6,300 円 A席5,400 円 B席4,500 円

第3回 新日本フィルハーモニー交響楽団 メンバーによる金管五重奏

【日時】12月21日(金) 開演 12:10 (終演予定12:50)

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】船部幸也・市川和彦(トランペット)

山口尚人(トロンボーン)

井手晴朗(ホルン)

佐藤和彦(チューバ)

【曲目】クリスマス・ソング・メドレー ほか

【チケット(税込)】全席指定1,000 円

【発売日】メンバーズ 8月25日(土) 一般 9月1日(土)

村治奏一 ギター・リサイタル

【日時】7月19日(木) 開演 12:00 (終演予定13:00)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】ハイオッシュ・ワルツ No.3 & No.4

ガーン・イン(鈴木公介 楽曲) Shall We Dance?

アーレン(武田雅 編曲) オーバー・ザ・レインボウ

ショビン:モラス(ティアヌス 編曲) フェリシダーチ

オシファ(リマ・村治奏一 原曲) リオの散歩道

オシセ:我が心若故に

タレグ(アーレン曲) 恋の思い出

イルマム:バテン・シャス曲

ディアヌス・フォーコ

【チケット(税込)】好評発売中

全席指定1,000 円

公演限定期(ピストロヤマ) スペシャル・ランチ付 セット券3,000 円(枚数限定)

「この名を記憶せよ
デイヴィッド・グレイルザンマー」
(2006年5月13日付
ル・フィガロ紙)

EVENT CALENDAR
2007.7.15 - 9.30

7 JULY

15 日
16 日
17 水
18 木
19 金
MUSIC 彩の国さいたま芸術劇場ランチタイム・コンサート 村治奏一ギター・リサイタル 詳細はP.19にて
20 金
21 土
22 日
23 月
24 火
25 水
26 木
27 金

28 土
DANCE サシャ・ヴァルツ&ゲスツ「Körper ケルバー(身体)」 開演15:00/会場:彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 一般:IS席6,000円 A席4,000円 学生A席3,000円 メンバーズ:IS席5,400円 A席3,600円 発売中/公演終了後、振付家サシャ・ヴァルツによるトーク(talk-talk-talk 第7回)を行います。 (当日の公演チケットをお持ちの方のみご参加いただけます。)
29 日
DANCE サシャ・ヴァルツ&ゲスツ「Körper ケルバー(身体)」開演16:00
30 月
31 火

8 AUGUST

1 木
2 金
3 木
4 土
MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート&ワークショップ 開演14:00/会場:彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ/出演:大庭直哉(オルガン) 奥田直美(リコーダー)マテュー・ガルニエ(ワークショップ講師) 入場無料

5 日
MUSIC 埼玉会館ファミリークラシック 夏休みオーケストラ! 開演14:00/詳細はP.15にて
6 月
7 火
8 木

9 木
PLAY 妹川幸雄演出 先世物探劇『エレンディラ』開演19:00/詳細はP.5にて
10 金
PLAY 「エレンディラ」開演19:00
CINEMA 彩の国シネマスタジオ「ひまわり」 上映時間:12:45, 16:00, 18:45/会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 一般:前売1,000円 当日:2,000円 小中高生:前売800円 当日:1,000円

11 土
PLAY 「エレンディラ」開演12:30-18:30
CINEMA 「ひまわり」上映時間:10:00, 12:45, 16:00, 18:45
12 日
PLAY 「エレンディラ」開演13:00

CINEMA 「ひまわり」上映時間:10:00, 12:45, 16:00
13 月
臨時休館日
14 火
PLAY 「エレンディラ」開演13:00

15 水
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
公演終了後バックステージ・ツアーを行います。(対象者:チケット購入者・要申込) ※詳細は財団ホームページ http://www.saf.or.jp/
16 木
PLAY 「エレンディラ」開演13:00

17 金
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
18 土
PLAY 「エレンディラ」開演12:30-18:30
19 日
PLAY 「エレンディラ」開演13:00

20 月

21 火
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
22 水
PLAY 「エレンディラ」開演13:00, 19:00
23 木
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
24 金
PLAY 「エレンディラ」開演19:00
25 土
PLAY 「エレンディラ」開演12:30, 18:30
26 日
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
27 月
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
28 火
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
29 水
PLAY 「エレンディラ」開演13:00, 19:00
30 木
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
31 金
PLAY 「エレンディラ」開演19:00

9 SEPTEMBER

1 土
PLAY 「エレンディラ」開演12:30
2 日
PLAY 「エレンディラ」開演13:00
3 月
臨時休館日
4 火
MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第2回 アンサンブルクラルテ (N響メンバーによる室内楽グループ) 詳細はP.19にて
5 木
6 金
7 金

8 土
MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.2 イライ・ラシュコフスキイ 詳細はP.19にて
CINEMA 彩の国シネマスタジオ「ロストロボーヴィチ 人生の祭典」 上映時間:10:00, 13:00, 16:00, 19:00
9 日
CINEMA 彩の国シネマスタジオ「ロストロボーヴィチ 人生の祭典」 上映時間:10:00, 13:00, 16:00
10 月
臨時休館日
11 水
12 木
13 金

15 土
MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート 開演14:00/会場:彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ/出演:大庭直哉(オルガン) 奥田直美(リコーダー)マテュー・ガルニエ(ワークショップ講師) 入場無料
16 日
PLAY 源氏語り54帖 第39回「雲隠」 開演14:00/会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール/一般:2,500円
17 月
PLAY 「源氏語り54帖 第39回「雲隠」」 開演14:00/会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール/一般:2,500円
18 火
臨時休館日
19 木
20 金
21 木
22 土
23 金
24 土
25 火
26 木
27 木
28 金
29 土

PLAY
維新派『nostalgia』(彼)と旅をする20世紀三部作 #1
チケット発売日
一般: 7月28日(土) メンバーズ: 7月21日(土) 詳細はP.19にて
PLAY

Vol.3 ディヴィッド・グレイルザンマー
チケット発売日
一般: 7月28日(土) メンバーズ: 7月21日(土) 詳細はP.19にて
PLAY
PLAY

PLAY

PLAY

MUSIC 宮本益光パリトン・リサイタル 詳細P.18にて
PLAY クラウンのいる風景 開演16:00
第一部「私だけのクラウンショウ'07」～きらきら♪りんりん!～(ワークショップ受講者による成果発表)
第二部「ロコとジーンの夢のこころわ～」
開演16:00 会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 料金:大人2,000円 子供1,000円 席料2,700円(大人1枚+子供1枚) ワークショップ受講7月2日(金)まで受付あり 詳細は財団ホームページ http://www.saf.or.jp/

PLAY クラウンのいる風景 開演16:00
第一部「私だけのクラウンショウ'07」～きらきら♪りんりん!～(ワークショップ受講者による成果発表)
第二部「ロコとジーンの夢のこころわ～」
開演16:00 会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
チケット発売日: 7月2日(金)まで受付あり 詳細は財団センター(電話: 048-858-5511)にお問い合わせください。

PLAY クラウンのいる風景 開演16:00
第一部「私だけのクラウンショウ'07」～きらきら♪りんりん!～(ワークショップ受講者による成果発表)
第二部「ロコとジーンの夢のこころわ～」
開演16:00 会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
チケット発売日: 7月2日(金)まで受付あり 詳細は財団センター(電話: 048-858-5511)にお問い合わせください。

前売りチケット発売情報 (~9.16)

CINEMA 彩の国シネマスタジオ「ロストロボーヴィチ 人生の祭典」

今年4月にこの世を去った、20世紀最後の巨匠、ロストロボーヴィチ。彼の人生を通して、人間愛と芸術の歴史が描かれたトキメキタリ。



チケット発売日 一般・メンバーズ: 7月13日(金)

9月7日(金) 13:00 / 16:00 / 19:00
9月8日(土) 10:00 / 13:00 / 16:00 / 19:00
9月9日(日) 10:00 / 13:00 / 16:00 / 19:00

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督: 増田瑛二 出演: 桑原邦男 高橋早紀 杉浦花菜 松原耕太 木村みどり 須田吉和子 沢井雅彦ほか (2006年/日本/136分)

一般: 前売1,000円 当日: 1,200円 小中高生: 前売800円 当日: 1,000円

CINEMA 彩の国シネマスタジオ「長い散歩」

人生は長い散歩。愛がなければ歩けない。一モノリオール映画祭グランプリ、国際批評家連盟賞、エキュニベック賞の3冠を達成した珠玉の1本。



チケット発売日 一般・メンバーズ: 8月10日(土)

10月12日(金) 14:00 / 18:30
11月13日(土) 10:00 / 14:00 / 18:30

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督: 増田瑛二 出演: 桑原邦男 高橋早紀 杉浦花菜 松原耕太 木村みどり 須田吉和子 沢井雅彦ほか (2006年/日本/136分)

一般: 前売1,000円 当日: 1,200円 小中高生: 前売800円 当日: 1,000円

MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート

第3回 新日本フィルハーモニー交響楽団 メンバーによる管金五重奏

チケット発売日 一般: 9月1日(土) メンバーズ: 8月25日(土)

9月1日(土) 14:00 / 15:30
9月2日(日) 14:00 / 15:30

会場: 埼玉会館 ニューオペラホール 演奏: 桑原邦男 監修: 増田瑛二 指揮: 増田瑛二 音楽: 高橋早紀

一般: 前売1,000円 当日: 1,200円 小中高生: 前売800円 当日: 1,000円

MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.4 小菅 優

2006年ガゼルソルク音楽祭デビューなど世界で活躍を繰り広げている日本期待の小菅優のパッパリスト!



チケット発売日 一般: 9月8日(土) メンバーズ: 9月1日(土)

9月1日(日) 14:00 / 15:30
9月2日(月) 14:00 / 15:30

会場: 埼玉会館 ニューオペラホール 演奏: 小菅 優

一般: 前売3,000円 A席3,500円 学生A席1,000円 メンバーズ: 前売3,500円

MUSIC 清水直子 ヴィオラ・リサイタル

ベルリン・フィル首席奏者、そしてソリストとしても第一線で活躍する清水直子によるフランクのソナタ。



チケット発売日 一般: 9月8日(土) メンバーズ: 9月1日(土)

9月1日(日) 14:00 / 15:30

会場: 埼玉会館 音楽ホール 演奏: 清水直子

一般: 前売4,000円 A席4,500円 学生A席1,000円 メンバーズ: 前売4,50

review 公演レビュー

『坂本龍一プロデュース
ロハスクラシック・コンサート2007』(5.15)

坂本龍一は音楽の新しい一面を公開した。それは作曲家と演奏家でしか共有できない音楽の秘密。あるいは、その扉をこっそり開けた瞬間だった。我々は、意図的であるにせよ心底、それを楽しんだ。いやいや「音」を「楽」しむ術を教わったのだった。文=熊谷信也



その瞬間は何気ない坂本龍一の言葉から、はじまった。第二部の後半、ステージ上にはチエロの藤原真理と坂本。

「作曲家から言うのも変なのですが、今から二人で演奏する曲。これを真理さん、試しに譜面どうりにちょっとだけ弾いてみてくれませんか? 感情を入れないで、できるだけ音符に忠実に。音楽にしないで」

坂本のピアノと藤原のチエロの譜面台には坂本の作曲した映画「永遠の赤」のテーマ曲「ロスト・チャイルド」の譜面がのっている。

「まあやって、みますが」と藤原は弓を動かす。テーマが奏でられた。少なくとも我々の耳には重厚で耽美な坂本メロディが聞こえた。

「今の音でも、十分に音楽になっていると思うん



だけど。今度は、真理さん、感情を入れて音楽をつくって下さいませんか?」

音楽を作る? どういうこと?

藤原は再びチエロを弾いた。まるで同じ音と思えない。藤原のチエロは決定的に表情が違う演奏をはじめた。楽器が歌いだすとはまさにこのこと。藤原の愛用のチエロは、300年前にイタリアで作られたストラディバリウス。バッハが子供の頃に製作されたものと聞く。300年の時間を越えて我々に伝わる音の波。さっきの演奏とは解釈が違う。ぬくもりが違う。たたずまいが違う。白黒画面から一瞬にして、メロディの色が見えた。

聽衆の面前で公開リハーサル? 無機質な記号(音符)が、音楽になる瞬間の目撃。こうして音楽は作られてきたのか? という感動。音楽は作曲家だけでは音楽にならず、またメロディだけでも真の音楽になり得ないことを、我々は知ることになった。もちろん、この夜のハイライト、ピアノ坂本龍一、チエロ藤原真理の演奏が特筆に値するのを言うまでもない。

静謐で深遠な演奏に胸が震えた。

是非、この楽しみを再び。

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
photo: ロハスクラ

information インフォメーション

彩の国さいたま芸術劇場 蜷川幸雄公開対談
NINAGAWA千の目 第10回

[日時] 9月15日(土) 18:00 ~ (約1時間)
[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
[定員] 346名(入場無料・要申込み)

演出家 蜷川幸雄

×

俳優

小栗旬



小栗旬プロフィール

1982年生まれ。TV、映画、舞台と幅広く活躍。TBSドラマ「花より男子!」(佐藤祐介)、今秋公開の「クローズZERO」(監督:三池崇史)と主演がつづく。蜷川演出の舞台では「HAMLET」(2003年)、「お気に召します」(2004年・2007年再演)、「間違いの喜劇」(2006年)、「タイタス・アンソロニカス」(2006年)に出演。今年11月には「カリギュラ」に出演予定。

【申込み方法】

ハガキにて下の事項を記入の上、締切日までにご応募ください。(応募多数の場合には、抽選を行います。この場合、入場券の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます。)

●記入事項

①郵便番号・住所 ②姓名 ③年齢 ④希望人数(1枚のハガキで2名様まで)
●応募締切 8月31日(金) 当日消印有効
●応募先 〒338-8508 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1 (財)埼玉県芸術文化振興財団「千の目」入場券募集係
●問合せ先 メンバーズ事務局 tel.048-858-5507

【会場】
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
photo: ロハスクラ

SAITAMA ARTS THEATER PRESS NO.10 JULY-AUGUST

CONTENTS

02 PLAY 特集 さいたまゴールド・シアター第1回公演
『船上のピクニック』05 PLAY スペクタクル・オペラ
見世物祭劇『エレンディラ』06 TALK 公開対談:NINAGAWA 千の目 第8回(4.8開催)
女優・寺島しのぶ × 演出家・蜷川幸雄08 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ 第18弾『オセロー』
インタビュー:演出・蜷川幸雄10 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ 第17弾
『コリオレインアス』
ロンドン、バービカン劇場4月公演レポート11 PLAY 維新派 新作
『nostalgia ノスタルジア』
<彼>と旅をする20世紀三部作 #112 DANCE 国際共同製作
インバル・ピント・カンパニー 新作2007
(世界初演)14 TALK アーティスト・トーク
talk・talk・talk 第6回(5.12開催)
コンドルズ 埼玉スペシャル公演アフタートーク15 MUSIC 埼玉会館ファミリー・クラシック
『夏休みオーケストランド!』
インタビュー:指揮者・飯森範親16 MUSIC NHK 交響楽団 ~グリーグ没後100年・シベリウス没後50年記念~
ショート・インタビュー:ピアニスト・仲道郁代18 MUSIC 宮本益光 パリトン・リサイタル
白井光子&ハルトムート・ヘル リートデュオ・リサイタル19 MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ(vol.2 & vol.3)
ランチタイム・コンサート(7月~)

20 イベント・カレンダーと前売りチケット発売情報(~9.16)

22 THEATER BRIDGE
公演レビュー、募集など劇場からのご案内

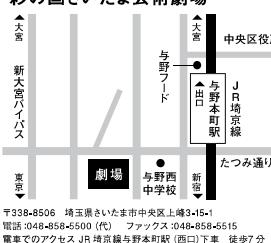
発行日:平成19年7月15日(隔週15日発行) 第10号(7月・8月)
発行人:竹内文則 発行・運営団体:埼玉県芸術文化振興財団
338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL 048-858-5500
監修:熊谷雅美 デザイン:AMATOTTE International

© (財)埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15.JULY 2007 All Rights Reserved
by Saitama Arts Foundation



ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場



埼玉会館



熊谷会館



(財)埼玉県芸術文化振興財団メンバーズ特典

[年会費] 2,000円 【メンバーズ料金】財団主催公演3,000円以上のチケットは10%OFF

【財団情報誌】彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館・熊谷会館で行われる公演情報を掲載している情報誌(隔月発行)がお手元に届きます。

【優先予約】一般発売よりも早く、チケットをご予約いただけます。

【フレーダー】人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてフレーダー

*指定席の場合、お席は抽選になります。

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズ
に入会すると、「便利」「楽しい」特典がもれなく付いてきます。

【「ストラーダ」への割引】彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事が2名様までが10%OFF。

【ポイント】チケットを購入するとボーナスが貯まります。貯まったボーナスはチケットと交換することができます。※チケット購入金額10円につき1ポイント。(1ポイント1円で換算されます)

【キャッシュレス】チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの口座引落になります。

【チケットの安心無料送付】ご購入いただいたチケットは、セキュリティパックでお届けいたします。

サポートー会員 H19.5現在

(株)与野フードセンター/(株)亀屋/武州ガス(株)/(株)エフテック/(株)松本商会/(有)香山壽夫建築研究所/埼玉新聞社
(株)テレビ埼玉ミュージック/金井大道具/(株)埼玉りそな銀行/(株)パシフィックアートセンター/アサヒ印刷(株)/FM NACK5
東京電力(株)埼玉支店/東京ガス(株)埼玉支店/埼玉県信用農業協同組合連合会/カヤバシステムマシナリー(株)/(株)八木橋
(株)タムロン/(株)オメダム/(株)十万石ふくさや/森平舞台機構(株)/日本データコム(株)/(株)ビルメン/東芝ライテック(株)
埼玉トヨタ自動車(株)/リズム時計工業(株)/(有)齋賀設計工務/クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)
ソシエテジェネララアセットマネジメント(株)/(株)スズセン/(株)武蔵野銀行/浦和ロイヤルパインズホテル/(株)アルピーノ
国際照明(株)/(株)松永建設/(株)サイサン 会長川本宜彦/三国コカ・コーラボトリング(株)/あいおい損害保険(株)埼玉営業部
(株)ショーモン/埼玉スバル自動車(株)/(株)木下フレンド/(株)東玉/桶本興業(株)/(株)佐伯紙工所/(株)太陽商工
(株)しまむら/アイジャパン(株)/(株)ウム・ヴェルト・ジャパン/(有)六辻ゴルフセンター/(株)オリエント/不動開発(株)/(株)明成
ホッカイエムアイシー(株)埼玉県信用金庫/(有)武蔵興産/(株)栗原運輸/(株)エコ計画/彩の国SPグループ/(有)プラネット
(株)イヤホンガイド/トキタ種苗(株)/関東自動車(株)/日本ピストンリング(株)/(株)クマクラ/(株)デサン/亀井産業(株)
(株)グリーン企画社/(有)高信/(有)中島運輸/(株)国際ビジネス研究所/セントラル自動車技研(株)/(株)Liviko/(株)アズマン
太平洋セメント(株)/(株)ピー・アンド・イー・ディレクションズ/朝日新聞 伸光堂さいたま販売(株)/丸美屋食品工業(株)

【サポートー会員】入会のご案内 埼玉県芸術文化振興財団では、財団の活動を支援していただける法人、団体又は個人の方を対象にサポートー会員の募集を行っています。

【入会による特典】劇場内サポートーボードへの会員名掲載 「埼玉アーツシアター通信」やホームページへの会員名掲載、劇場内広報用パンフレットスタンプの利用・財団主催公演へのご招待。その他
【年会費】1口 10万円(有効期限は、入会月から1年間となります。)【事務局【問い合わせ先】】(財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポートー会員担当 TEL 048-858-5500(代)

仲道郁代(ピアノ)

Ikuyo Nakamichi,piano



藤岡幸夫(指揮)

Sachio Fujioka,conductor

～グリーグ没後100年・シベリウス没後50年記念～

NHK交響楽団

平成19年10月19日(金) 19:00 開演(18:00開場)

埼玉会館 大ホール ※18:20～18:35 指揮者によるプレトーク

グリーグ(1843-1907)

「ペール・ギュント」第1組曲Op.46より 朝の気分、アニトラの踊り

「ペール・ギュント」第2組曲Op.55より ソルヴェーグの歌

ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16

シベリウス(1865-1957)

交響曲 第1番 ホ短調 Op.39

